

平成27年6月30日

埼玉県農地中間管理機構

理事長 前田敏之様

埼玉県農地中間管理事業評価委員会

委員長 船川由孝

農地中間管理事業に係る平成26年度の評価について

標記について、評価委員会を開催しましたので、その結果を、別添のとおり通知します。

平成27年度の農地中間管理事業の推進にあたっては、これを踏まえ、適切かつ効果的に  
行われるよう期待します。

# 平成27年度第1回農地中間管理事業評価委員会開催結果

平成27年6月30日

埼玉県農地中間管理機構

- 期日：平成27年6月25日（木）～29日（月）
- 開催方法 各委員への持回り
- 評価委員 船川委員（委員長）・福永委員・佐野委員・小林委員
- 内 容 平成26年度の実績及び27年度の取組方針の説明  
意見交換及び書面による意見聴取
- 機構担当職員 田村農業振興局長、高村農地担い手支援部長

## 1 説明概要

### （1）平成26年度の実績（資料1、2）

- ・ 埼玉農地中間管理機構の推進体制の整備
- ・ 事業推進の状況と実績
- ・ 成果事例

### （2）平成27年度の取組方針（資料1、2、3、4）

- ・ 推進目標と方策（推進方針）
- ・ 現時点での推進状況

## 2 委員意見

### （1）平成26年度事業について

#### ア 周知不足

- ・ 現状把握に時間がとれなかった。
- ・ 行政や農協の対応不足があった。
- ・ 小規模な農家の隅々まで知ってもらう必要がある。
- ・ 全国的に認知、理解が進んでいないことは問題。

## イ 評価

実績には及第点とは言えないが、問題の明確化や仕組みづくりを考える年となった。

### (2) 平成27年度の展開について

- ア 800haの達成に向けて頑張ってもらいたい。前年度の反省を踏まえた展開に期待する。
- イ 機構の体制整備、行政や農協の動きなどにより実績は増える。
- ウ 周知については、農協理事会での説明も効果的である。
- エ 米価が低価格で推移するとなれば、大きく動いていくと考える。

### (3) 推進上の課題について

- ア 相対での農地の貸借が事業を阻害すると考えられるので、実態を把握する必要がある。
- イ 機構の役割は転貸で終わるのではなく、仲人のような存在として貸し手と借り手の間でその機能を維持し、広がっていくことが期待される。
- ウ 契約満了時の返還手続きや、転貸した土地に瑕疵があった場合等の対応について想定して事業を進めるべきである。